

沖縄 プロフェSSIONナルズ

11

このコーナーでは、それぞれの仕事を通してよりよい沖縄、暮らしの創造を目指すプロフェSSIONナルな仕事人を取り上げる。

東南植物楽園 学芸ガイド部ガイドチーム
アシスタントマネージャー

仲井間 歩さん



植物の面白さを伝えたい

4万5千坪の広大な敷地で、約1300種の植物が鑑賞できる沖縄市知花の「東南植物楽園」。仲井間歩さんは、来園者に園内の植物の魅力を伝えることを仕事とする学芸ガイド部ガイドチームのアシスタントマネージャーだ。園内を来園者と共に歩いてガイドを行うほか、季節ごとに開催されるイベントのプログラムも考案する。この夏注目の「食虫植物講座」も仲井間さんが企画し、講師役を務めている。

「植物を通して人とコミュニケーションを取るのが好きなんです」。東南植物楽園で、ガイドを務める仲井間歩さんは仕事のやりがいを話す。

植物との関わりは、植物好きだった祖父に遡る。庭で果物などを育てていたが、孫を喜ばせるために育てていた部分も大きかったのでは、と振り返る。この原体験が、仲井間さんが抱く「植物は人と人をつなげる」という思いの原点となっているようだ。

大学卒業後は、花屋で働いた。やがて各地の植物園に勤務するようになり、東南植物楽園のリニューアルオープンに伴い同園で勤めはじめた。

「植物を見て面白いと思ったことを誰かと共有したい」と笑顔を見せる仲井間さん。一緒に園内を歩いていると、園内に植えられた植物の興味深いエピソードを、次から次へと説明してくれる。その熱心な口調には、思わず引き込まれずにはられない。

来園者へのガイドのほか、ゴールデンウィークや夏休みなど、季節ごとに開催さ

れるイベントの企画を考案するのも、仲井間さんの仕事だ。

食虫植物が大好きで、自身も自宅まで育てているという仲井間さんは、「食虫植物講座」を提案し、ゴールデンウィークに初開催。自ら講師を務めた講座は話題を呼び、多くの親子連れが詰めかけた。好評を受け、夏休み期間中の開催も決定した。

「植物は年配の人が楽しむものというイメージがありますが、食虫植物なら子どもたちに面白くも思ってもらえると、思ってた以上に面白く思ってもらえる」とリグサ、ウツボカズラなど4種の食虫植物が登場。ハエトリグサの葉が閉じる様子を実演したり、ウツボカズラの捕虫袋をカメラで覗いて見せたりすると、子どもたちの目がキラキラ輝くという。

仲井間さん自身、植物について話す時は、好奇心いっぱいの子どものような表情を見せ、「植物への思いを共有してもらえた時が一番うれしい」と笑う。

(第2・4週に掲載)

仲井間さんが講師を務める東南植物楽園の「食虫植物講座」は、9月1日(日)までの期間中、毎日14~15時に開催(料金500円、別途入園料が必要。夏休みの宿題の参考にもおすすすめ。問い合わせは098(0)333(0)255(東南植物楽園)へ。